



種貞作
國貞画

廿七編下

外題西己國貞

1178
54



白
縫
譚
十
輯

柳下
製本
終

廿七編上

1178
53



白 縫 譚

十
輯

柳
下
製
本
終



廿七編上

13
1178
53



鳥山秋作 又女
りんごり

曲立園



1178
53

三々ぬひ

ものころり

廿七編上

を祿う守作

くよさるる





龜谷多門之助光行

東を画く猫類たるハ伎の拙ありきりて猫を描きたるが大失と視え
 ても補景の蝶ハ眼を賞して懼ん猫ハ拙と云ふるこそ宜けれ学力ある
 裨官のち手ハ速波語格假字用例引各の古言故事来歴謬誤
 訂されしハ書善美あり、贅節を撤正宗の短刀指を切人と最非愛
 耳熟ぬ詞遣正史の事實ハ俗小疎く琴笛ハ酒酌を行院詞曲の脚色を
 竊傳奇の語調ハ似々様々の戯作の本意と拙を守り、粵小十年廿七編み
 も年明を惜まれしこそ人も花文ハ然るて實の尤も者客紛々が筆具利い
 出精仕本編が半と誅戮の大場ハ綴文ハ作画の愛敬を於菟の威と
 仮く次編の花始退治首繪小掲るもこと舊しれど猫と画く枚子とも晒
 きぬけ此年頃誰あらぬハの譚是を學者の真似を其徳あり有づくや

安政五年戊午夷則卒業
 同六年己未仲春開市

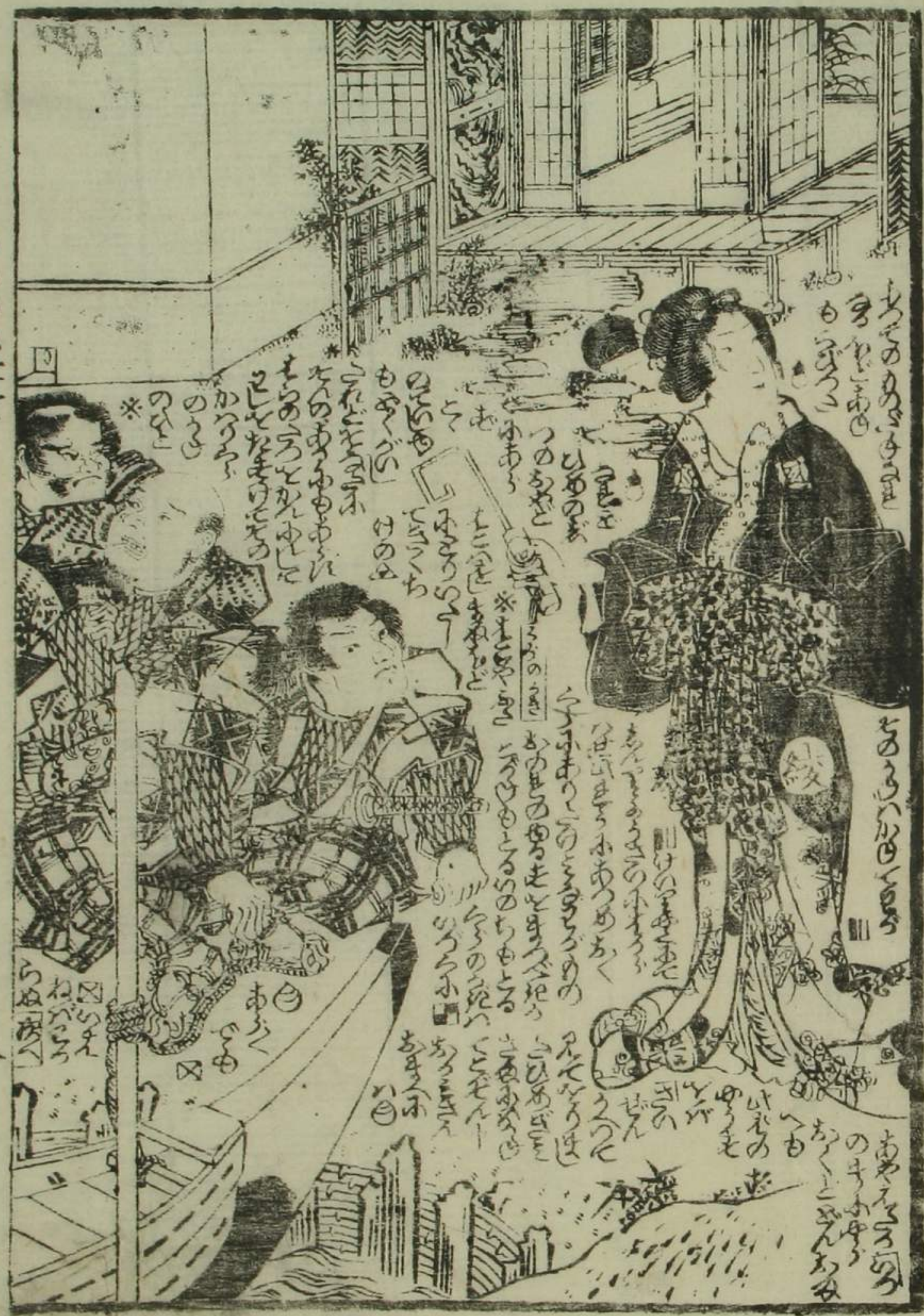
柳下亭種員記



あつぬ入とヒ



八十一



國貞畫



種員作

鳥山豊後
博多の逆旅

竜川小文次
機密

第二十八

編めて
分解

引つて
覆

わどわど
上

志のぬいし

五編の御
本種彦作
六編の一
惠齋芳義

両面織花田物語

初編より
五編迄
同

作

假名續八代傳

二編の假名垣
菅文録
三編の朝霞樓
方樂主

古今
能優 似顔大全

故豊國公
羽筆
大錦 白三番

太平記英勇傳

中錦山々
亭有人記
百番續
惠齋芳義





種
負
作
國
負
画

廿七編下

外題西子國

~ 13
1178
54





あせんの
あま山小
天中のせのて
ひたうけて
よせまて
あぐまを
やうめのを
あぐいふ

あせんの
あま山小
天中のせのて
ひたうけて
よせまて
あぐまを
やうめのを
あぐいふ

あせんの
あま山小
天中のせのて
ひたうけて
よせまて
あぐまを
やうめのを
あぐいふ



※あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま



あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

あまのうやまのこの
さあつとあひひ
ゆらえんとつあきつとま

